

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.119

2009/10/20

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

保全活動の成果次々現れる



台風一過激流走る沢沿いコース (09/10/08)



幻だったミヤコアザミ (09/09/26)

ボノソウがシカの食害で絶滅かと思われていましたが、復元した北部湿原の片隅で新たに発見されました。ミヤコアザミ・アケボノソウともにシカの食害に遭っており直ぐさま保護柵を設置し種子採取によって増殖をはかる計画をしています。保全活動とは直接関係ありませんが、希少種のコシタカコベソマイマイ (殻は以前から確認) の生体が観察されました。森の生物多様性が確認できた発見です。



コシタカコベソマイマイ



1990年代に分布が確認されていたミヤコアザミ (滋賀県レッドデータブック・絶滅危惧種) が遂に再確認されました。2000年代以降その存在の確認を言われつつも、全く姿を見ることができませんでした。2003年以降継続実施してきた北部湿原の復元が成った本年3株の開花が確認できました。復元作業の最大の成果ということになります。

また5年前まで見られたアケ



アケボノソウ (09/09/26)

新顔珍品続々・・・

新しいものが見つかる時は重なるものです。これまでも何回となく出向いていたはずの「四季の森」の奥地でサルナシが見つかりました。森の木の実が生り年であるためか、サルナシも随分と実を付けています。実の断面はキウイフルーツそのものです。勿論味もまた。



サルナシの断面 (09/09/23)



サルナシ (09/09/23)



ケンボナシ (09/10/03)



カマツカ (09/10/19)

ケンボナシは、楽舎のトイレ裏にありこれまで気づかなかったのが不思議。カマツカは、果実がアズキナシと似通っており落果ばかり見ていたが、沢コースに比較的低いものがあり確かめた結果です。高木ではまだまだ新顔が出てくる可能性が高い。



ツリガネタケ (09/10/19)

最近になって降雨も例年通りの状況となり次々キノコが発生しています。その中には松かさから発生したアマタケも見られました。7月以降森を歩くと次々と足元で跳ねるタゴガエルに一瞬驚くことがあります。その肌色は周囲の色に合わせて変色します。ただ緑色には変色できないらしく緑色の葉に止まることは極端希です。今回は赤いタゴガエルに遭遇しました。

キノコの発生が例年になく少ないシーズンでした。ただ腐朽菌は例外で、いわゆる私たちがキノコと認識し易いものが少ない分目立ちました。そのひとつにツリガネタケがあります。左の画像がそれですが、おもしろい生育をしています。この原木はミズナラです。昨年まで矢印方向に直立していましたが、今春積雪で倒れました。その結果キノコの発育方向が変わり、新たなキノコが今年の成長方向に直角に交わるように生育しています。重力には抗しれなかったということです。こんなところにも重力が作用するとは・・・。



アマタケ (09/10/19)



タゴガエル (09/10/19)

子どもたち草木染めに挑戦

西浅井町の子どもを対象に実施されている「わくわくドキドキ冒険体験セミナー」が今年も実施され草木染めに挑戦しました。ことのおこりは、森にあるカリヤスが古代から染色に使われているとガイド時にも紹介しているものの会員が染めた経験もありませんでした。幸い森林レンジャーの橋本氏が染色に興味があり、商品開発も兼ねて実施しようということになりました。右の黄色はカリヤスで染色したもので、その上の文字染めは某君がヤシャブシの果実で染めたものです。現在楽舎ではカリヤスの染色セット(¥500)も販売しています。ご利用下さい。



染色をする子どもたち (09/10/03)



仕上がった作品